

統一課題局別全体計画

九州森林管理局

課 題	超緩効性肥料を用いたエリートツリー等コンテナ苗の活用					開発期間	令和7年度 ～令和11年度
開発箇所	宮崎森林管理署 都城支署 巢之浦国有林 2114ろ林小班	面積・プロット数	1.80ha ・肥料有3箇所 ・肥料無3箇所 ・普通苗3箇所	担当部署	森林技術・支援センター 宮崎森林管理署都城支署 技術普及課	共同研究機関	
課題の分類	統一課題	技術開発基本目標	1	その他関係施策等	森林・林業基本計画、 国有林野の管理経営に関する基本計画		
現状と問題点	エリートツリー等コンテナ苗（特定苗木を含む）については、下刈り回数の縮減による造林の省力化・低コスト化等が期待され、今後、供給体制が整備されてくるものと考えられる。一方で、その能力を十分に発揮するためには土壌や微地形等が影響するとの調査結果もあり、特にエリートツリー等が良好に成長するには、成長初期に十分な養分が必要と想定される。						
開発目的 (数値目標)	植栽後も効果を発揮する超緩効性肥料を用いたエリートツリー等コンテナ苗の成長促進効果、植栽適地等の検証を行うとともに、5年後の実用化を念頭に再造林の低コスト化の可能性について検証する。						
開発方法	別紙						
年度別計画	令和6年度 ・苗木依頼 ・コンテナ苗育苗記録	令和7年度 9月上旬～9月下旬 植栽 ・基礎データ ・植栽初期調査 ※一貫作業地につき、次年度の下刈りは実施しない。 ・気象データ	令和8年度 ・生育状況調査・雑草木調査 ・気象データ	令和9年度 ・下刈 ・生育状況調査・雑草木調査 ※下刈りは、C区分判定で必要に判断される場合に実施 ・気象データ	令和10年度 ・下刈 ・生育状況調査・雑草木調査 ※下刈りは、C区分判定で必要に判断される場合に実施 ・気象データ	令和11年度 ・下刈 ・生育調査状況調査・雑草木調査 ※下刈りは、C区分判定で必要に判断される場合に実施 ・気象データ	
中間報告				○			
原課・原班の意見	・下刈実施の判断は、プロット内、外どちらで判断するのか。						
その他	・苗木規格 苗高40～70cm以上、径5.0mm(県始良20号)、普通苗(タノアカ)						

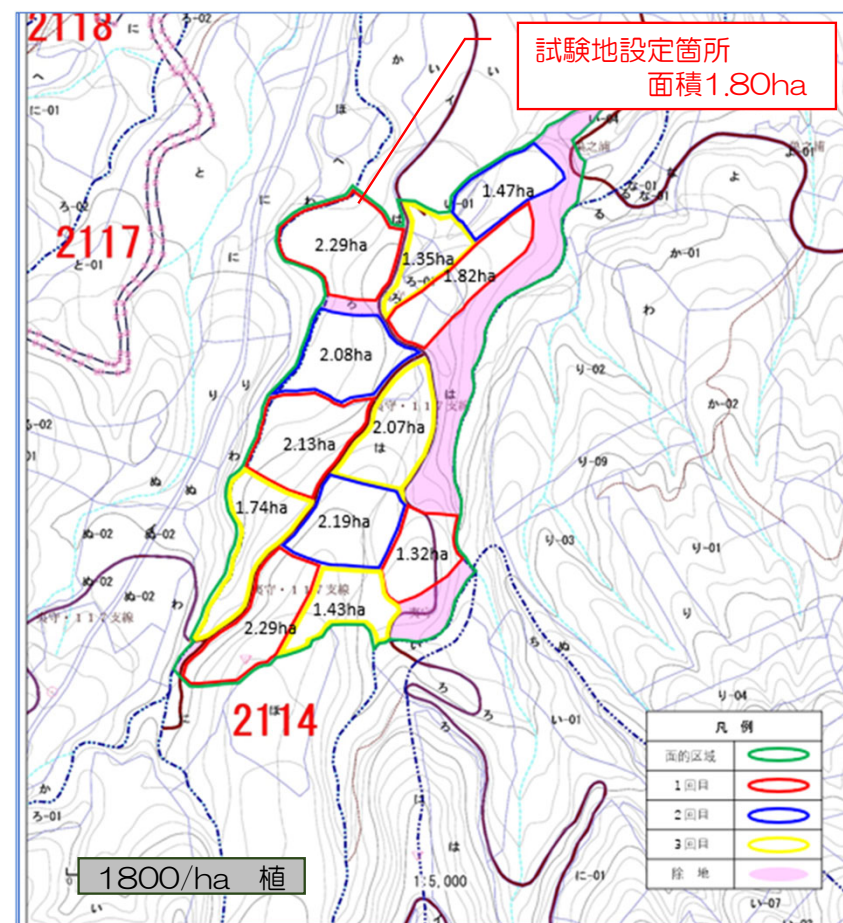
【都城支署】

予定

年度	R6										R7													
月	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
事業																								
	現地確認													契約期間（公告期間含む）										
苗木																								
	苗木依頼			超緩効性肥料混入のコンテナ育苗期間																				

【試験地】

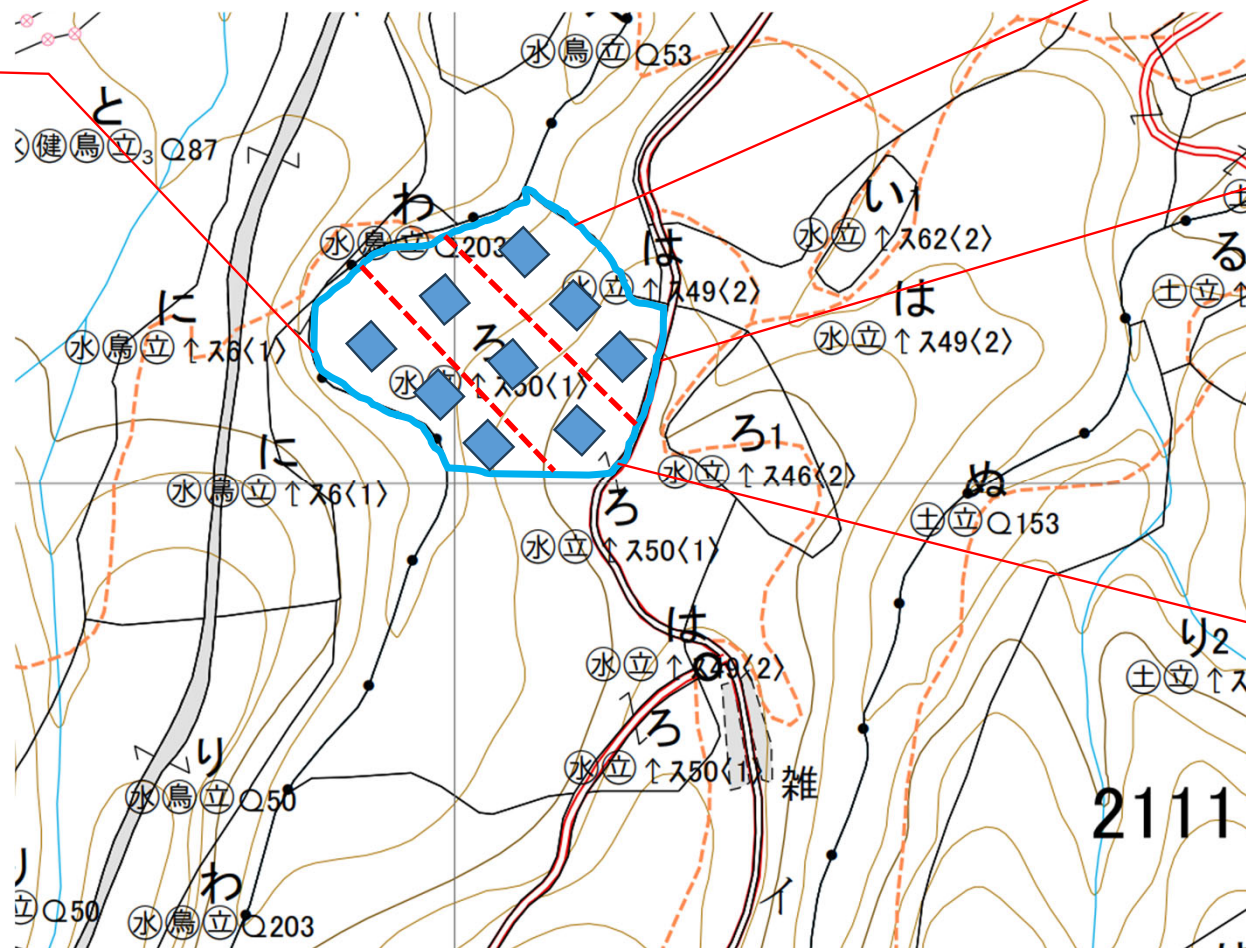
- 設定場所：宮崎県小林市 巣之浦国有林2114ろ林小班
- 設定面積：1.80ha
- 植栽樹種：特定苗木（県始良20号）、普通苗木（タノアカ）
- 育苗業者：（株）長倉樹苗園
宮崎県田野町甲1599-1 「飯干好徳」
- 設定方法：縦割り型試験地
- 施肥方法：超緩効性肥料をコンテナ培地に混ぜて育苗（10g/ℓ）
- 育苗培地：ココピート100%（元肥有）
- 苗木規格：苗高40～70cm、径5.0mm上
- 苗木本数：超緩効性肥料有 1100本（県始良20号）
超緩効性肥料無 1100本（県始良20号）
普通苗 1100本（タノアカ）



統一課題 試験プロットイメージ図「都城支署管内」

1800/ha 植

I 伐区 0.60ha
超緩効性肥料無



試験地設定箇所
面積1.80ha

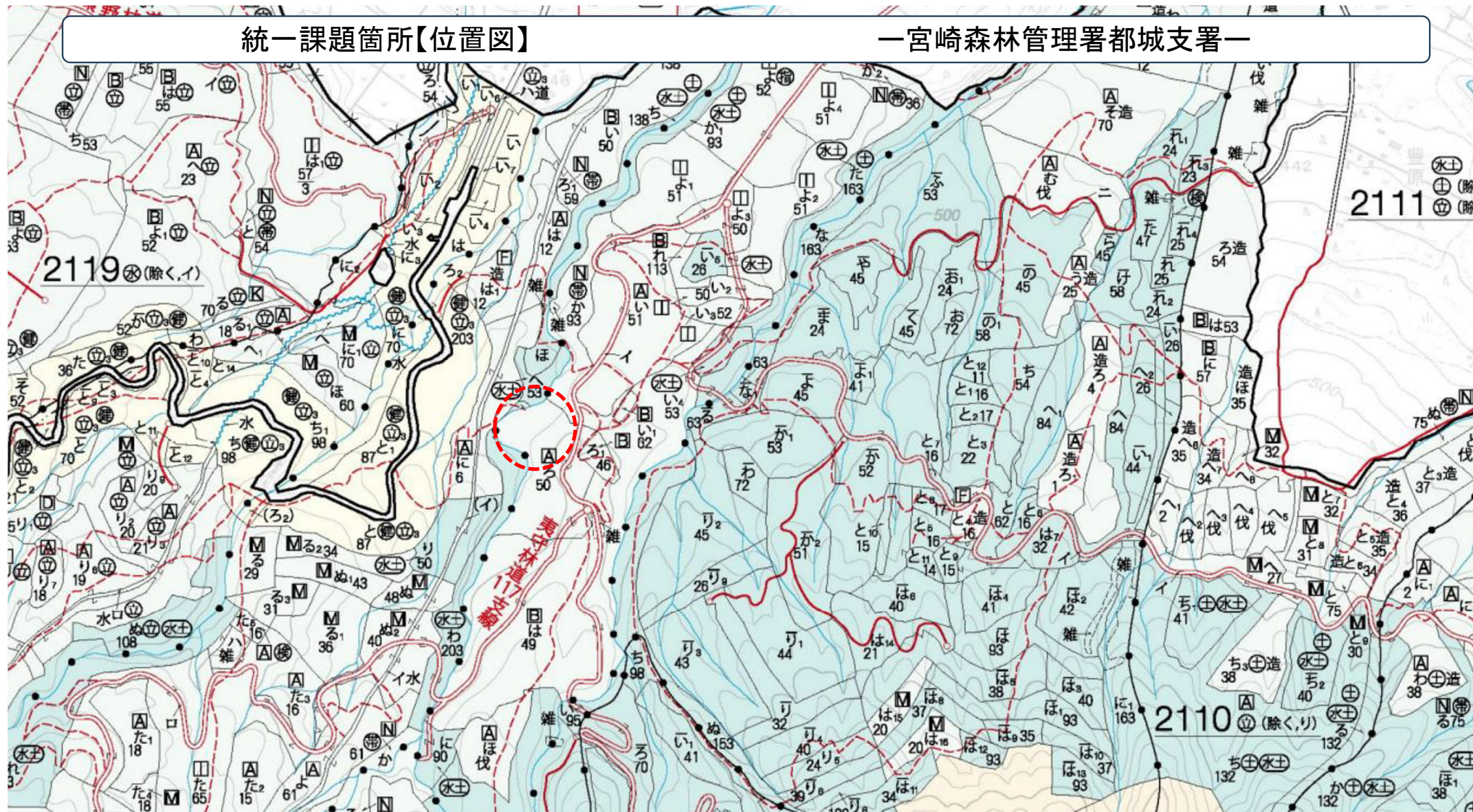
III 伐区 0.60ha
普通苗木

II 伐区 0.60ha
超緩効性肥料有

★伐採前の「試験プロット
イメージ図」であり、プロット
力所の変更もあり得る。

統一課題箇所【位置図】

一宮崎森林管理署都城支署一



統一課題局別全体計画

九州森林管理局

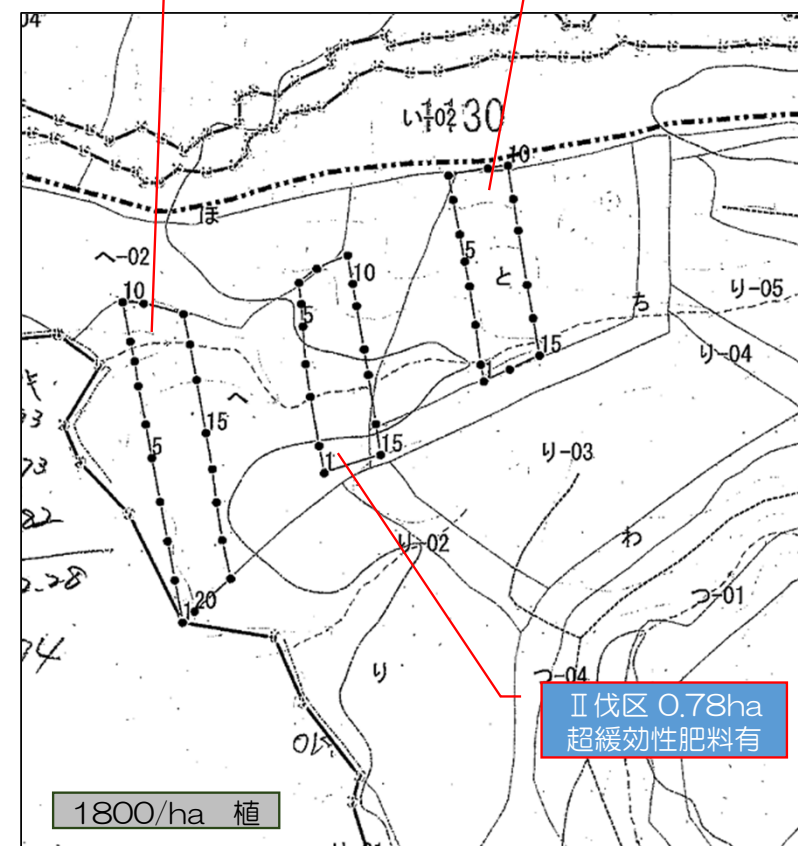
課 題	超緩効性肥料を用いたエリートツリー等コンテナ苗の活用					開発期間	令和7年度 ～令和11年度
開発箇所	熊本森林管理署 大野国有林 1130へ、と林小班	面積・プロット数	2.74ha ・肥料有3箇所 ・肥料無3箇所 ・普通苗3箇所	担当部署	森林技術・支援センター 熊本森林管理署 技術普及課	共同研究機関	
課題の分類	統一課題	技術開発基本目標	1	その他関係施策等	森林・林業基本計画、 国有林野の管理経営に関する基本計画		
現 状 と 問 題 点	エリートツリー等コンテナ苗（特定苗木を含む）については、下刈り回数の縮減による造林の省力化・低コスト化等が期待され、今後、供給体制が整備されてくるものと考えられる。一方で、その能力を十分に発揮するためには土壌や微地形等が影響するとの調査結果もあり、特にエリートツリー等が良好に成長するには、成長初期に十分な養分が必要と想定される。						
開発目的 (数値目標)	植栽後も効果を発揮する超緩効性肥料を用いたエリートツリー等コンテナ苗の成長促進効果、植栽適地等の検証を行うとともに、5年後の実用化を念頭に再生造林の低コスト化の可能性について検証する。						
開発方法	別紙						
年度別 計 画	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	
	・苗木依頼 ・コンテナ育苗 苗記録	9月中旬～10月中旬 植栽 ・基礎データ ・植栽初期調査 ※一貫作業地につき、次年度の下刈りは実施しない。 ・気象データ	・生育状況調査・雑草木調査 ・気象データ	・下刈 ・生育状況調査・雑草木調査 ※下刈りは、C区分判定で必要に判断される場合に実施 ・気象データ	・下刈 ・生育状況調査・雑草木調査 ※下刈りは、C区分判定で必要に判断される場合に実施 ・気象データ	・下刈 ・生育調査状況調査・雑草木調査 ※下刈りは、C区分判定で必要に判断される場合に実施 ・気象データ	
中間報告				○			
原課・原班の意見	・下刈実施の判断は、プロット内、外どちらで判断するのか。						
その他	・苗木規格 苗高35cm以上。径5.5mm(県始良20号)、普通苗(シャカイン)						

【熊本署】

年度	R6										R7														
月	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
事業	←→										←→														
	現地確認										契約期間（公告期間含む）														
苗木	←→					←→																			
		苗木依頼				超緩効性肥料混入のコンテナ育苗期間																			

【試験地】

- 設定場所：熊本県山都町 大野国有林1130へ、と林小班
- 設定面積：2.74ha（Ⅰ伐区1.14ha、Ⅱ伐区0.78ha、Ⅲ伐区0.82ha）
- 植栽樹種：特定苗木（県始良20号）、普通苗木（シャカイン）
- 育苗業者：羽田樹苗園
熊本県阿蘇郡南阿蘇久石3609-3 「羽田誠次」
- 設定方法：縦割り型試験地
- 施肥方法：超緩効性肥料をコンテナ培地に混ぜて育苗（10g/ℓ）
- 育苗培地：ココピート7割、ピートモス3割（元肥無）
- 苗木規格：苗高35cm以上、径5.5mm上
- 苗木本数：超緩効性肥料有 1500本（県始良20号）
超緩効性肥料無 2100本（県始良20号）
普通苗 1500本（シャカイン）



統一課題 試験プロットイメージ図「熊本森林管理署管内」

1800/ha 植

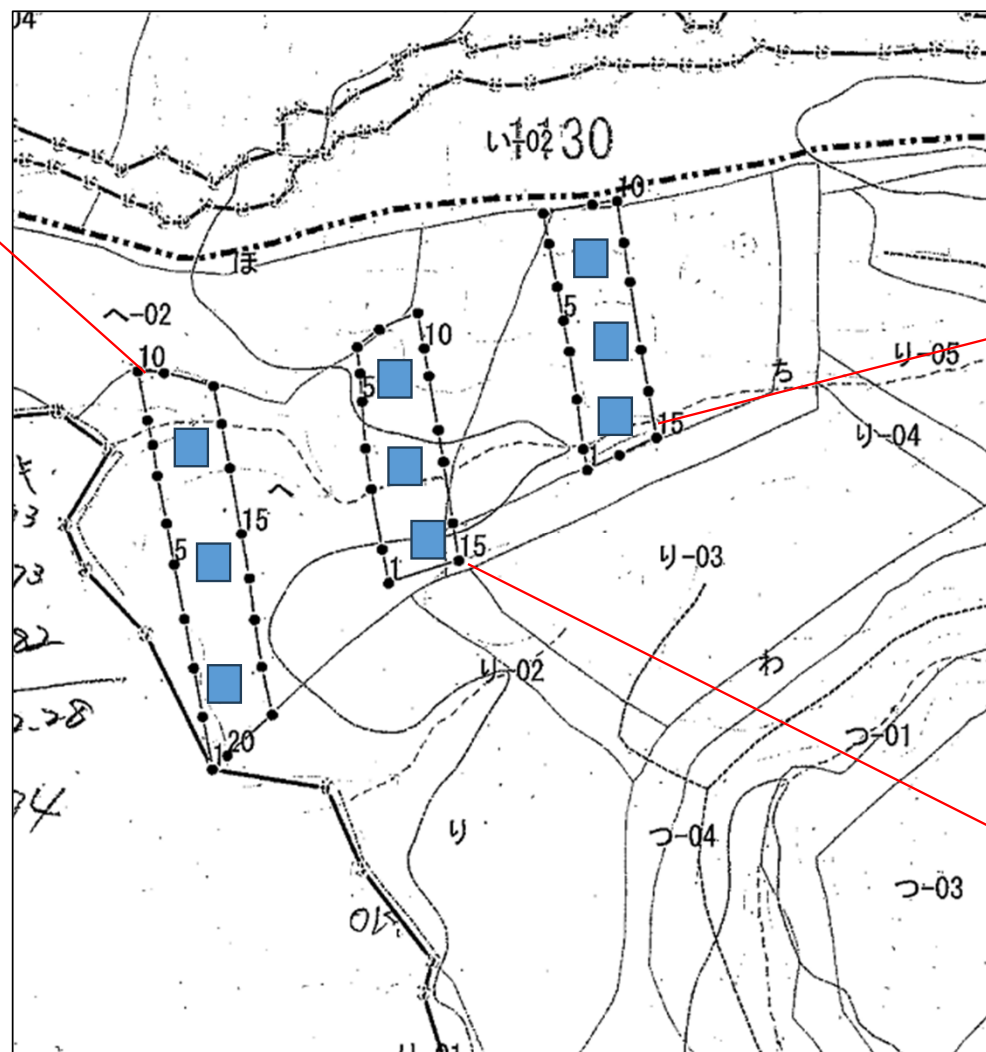
I 伐区 1.14ha
超緩効性肥料無

試験地設定箇所
面積2.74ha

Ⅲ伐区 0.82ha
普通苗木

Ⅱ伐区 0.78ha
超緩効性肥料有

★伐採前の「試験プロット
イメージ図」であり、プロット
力所の変更もあり得る。



統一課題箇所【位置図】 —熊本森林管理署—

統一課題箇所【位置図】 —熊本森林管理署—

